

大湊地区防災連合会



会長 前田節夫さん

連合の活動

南国市では平成11年ころから自主防災組織が結成され始めました。前浜、久枝、下島地区に組織がそろい、平成22年に大湊地区防災連合会を立ち上げました。

連合会の活動としては、各自主防災組織が課題としている、避難場所の再検討や組織の運営状況などの情報交換や助言、単独組織ではなかなかできない講演や講習の開催、炊き出しや消火訓練などを行っています。

避難場所は、伊都多神社・津波避難タワー（久枝地区は完成、浜窪地区は建設中）が指定となっています。しかし、伊都多神社は前浜地区の高台にありますが、神社内の木を伐採しなければ、避難してくる住民の数に対応できないという問題があります。



専門の講師を招いて講演会を開催



伊都多神社への避難訓練

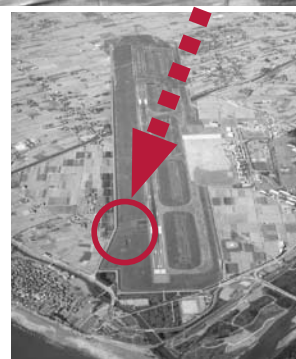
むかしは

かつてここ（三島村久枝地区）には、久枝山（室岡山）という小高い山がありました。昭和16年1月に日本海軍が飛行場建設のため、村民に立ち退き命令を出し、この山を切り崩したのです。面積13,000㎡、高さ28mの岩山でした。

「明治の大洪水にのう、物部川の堤防がきれてのう、村民の者が久枝山に逃げて助かったもんよ、ほんで久枝山を命山と言うぜよ・・・」



「命山」画 枝常保



久枝山跡周辺

「消えた三島村」画 中村雄輔

「村が消えた」森武司著より
過去に何度も自然災害から村民の命を救ってきた命山、東日本の津波災害映像を見るたびに、命山を再現したいと切に願っています。

いま、そしてこれから

年間1万円の補助金で、毛布などの防災備品の補充をしています。活動費まではまかなえないのが現状です。東日本大震災以降、揺れたら津波がくるという意識は高まっています。その危機感を持續させていく難しさを感じています。

ボランティア精神旺盛な前田連合会長は「この地域の住民の命を守るため、それぞれの自主防災組織の訓練と、連合会ならではの活動を通じて地域の絆を深めていきたい」と話を締めくくられました。



避難した後も被害を想定した訓練が続きます。

西立石防災会



会長 前田汎章さん

平成15年に西立石防災会を立ち上げ、17年から会長を務めています。補助金制度を利用し公民館の放送設備を整備したことが、立ち上げのきっかけになりました。

西立石は44戸、住民は約150人です。65歳以上が半数で、そのうち70歳以上は3割を占めています。手書きの地図を作り70歳以上の高齢者がいる世帯を把握しています。

毎年10月に総合防災訓練を行っています。情報、消火、避難誘導、救出・救助、給食・給水の5班に分け、それぞれ正・副班長を決め任務分担をしています。

訓練は避難、炊き出しのほかAEDの操作方法も覚えさせます。倒壊家屋からの救出訓練をしたこともあります。

避難訓練

前日までに回覧で知らせ、当日は放送をした後、家を一軒一軒回って避難を呼びかけます。60人ほどの参加があり、若い人も協力的で頼りになります。班長はトランシーバーで連絡を取り合い、避難状況や人数の確認の報告をします。近くの空き地に避難しますが、家屋やブロック塀の倒壊も考えられるので、それが心配な点です。

今のところ津波の想定はしていませんが、いざというときは歩いて20〜30分の高台へ避難しないといけません。橋や石垣があり避難経路の安全確保が今後の課題です。

補助金でトランシーバーを追加購入し、副班長にも持たせたいです。



自力で動けなくなった人をタンカで運びます。

炊き出し訓練

給食・給水班の炊き出しは薪を使い、おにぎりや豚汁、カレーなど毎回献立を変え味付けも工夫しています。おいしいですよ。みんなで一緒に食べると連帯感も強くなります。

農家が多いのでお米はあります。打ち込み井戸もあるのですが水には困りません。発電機も間に合います。

防災会は年3回親睦会をしています。地区民運動会も力を入れて参加しています。地域住民が日頃から声を掛け合い、つながりを持つことが大切。いざというとき、みんなの命を守ることにつながります。

「みんなあ訓練に参加してよ！」



大釜で豚汁を作り、温めます。燃料は薪。



家の下敷きになった人を救出します。「今、助けるきのう」



救急車もなかなか来んろうき、自分らあでせんと助からんちや

委員長コメント

取材させていただいたことも防災キャンプでは、専門の教授、学生、地域の大人のアドバイスを受けながら、小学生が真剣に防災学習に取り組んでいました。

数十年前には、地域の中心になるであろう子どもたちが「地震についての正しい知識」「自分の地域で、自分の命を守るための備えや行動」について、繰り返し学ぶことはとても大事なことで感じました。

自主防災会長さんのお話からは、まず、地域住民の情報を持つこと、いろいろな想定での避難訓練をすることなど、安心・安全な地域づくりを目指した地道な活動が続けられていることを知りました。

自主防災の訓練にもっと関心を持ち、出てきてほしい、補助金もつとあれば・・・など課題もあるようです。今回の特集を通じ、私自身、防災意識を持ち、いざというとき、しっかりと判断、正しい行動ができるよう地域の自主防災活動に積極的に参加しなければと反省させられました。